

日本道德教育学会誌 『道德と教育』 投稿規定・執筆要項

令和4年4月17日改正

令和8年4月26日改正

論文等種別

本誌に掲載する論文等は、原則として次のとおりとする。

- (1) 巻頭言(依頼)
- (2) 「研究論文」(投稿)
会員が、研究活動・学会活動を主題とする研究成果をまとめた論文。
- (3) 「実践研究論文」(投稿)
会員が、実践事例研究の成果をまとめた論文。
- (4) 「研究ノート」(投稿)
会員が、「研究論文」及び「実践研究論文」に準じる研究・実践の成果としてまとめた論文。また、萌芽的な研究及び道德教育理論・実践に関する紹介、報告など。
- (5) 大会報告(依頼)
研究大会における基調講演、学術講演、シンポジウム及び本学会が主催する学術的会合の講演者・提案者がその論旨をまとめたもの、並びにシンポジウム司会者がその内容について総括した報告。
- (6) 特集論文(依頼・投稿)
編集委員会で決定した特集内容に関する論文。
編集委員会からの特に依頼した論文(依頼論文)と自由投稿論文。
- (7) 書評
道德教育の研究に関連する著書、文献、資料等の紹介と批評。
- (8) 各支部の活動状況など

投稿規定

1. 投稿資格

日本道德教育学会会員で、9月30日までに当該年度の会費を納入している者。
(単著、共著にかかわらず著者は本学会の会員でなければならない。)

2. 投稿論文内容

- (1) 投稿論文原稿は、道德及び教育の関連領域に関する未刊行のものに限る。他の学会誌・協会誌・紀要・商業誌等に発表されたもの及びそれらに掲載予定もしくは審査中のものは投稿できない。ただし、口頭発表の場合は、この限りではない。
- (2) 投稿にあたっては、論文の種類(「研究論文」「実践研究論文」「研究ノート」)を別紙に明記することとする。ただし、編集委員会は、査読結果に基づき、投稿者の同意を得て他の論文の種類として掲載することができる。
- (3) 同一投稿者による同じ号への単著による「研究論文」「実践研究論文」「研究ノート」複数投稿は認めない。ただし、依頼論文の場合はこの限りではない。

3. 投稿論文原稿の書式・分量・要旨等について

- (1) 使用言語は、日本語を原則とする。ただし、何らかの事情により、そのほかの言語の使用を希望する場合は、事前に相談するものとする。

- (2) 投稿論文原稿は、A4 版(1 ページ 40 字×40 行、余白は上下左右ともに 25mm で設定)、10 枚以内で作成する。論文の字数は、本文、図、表、註、引用・参考文献を含めて 16,000 字以内とする。手書きの場合も原則としてこれに準じる。
- (3) 審査の公平を期するため、投稿論文には、氏名・所属を記載しない。また、論文内に、「拙著」「拙稿」等の執筆者が特定できるような情報・表現を使用しない。
- (4) 投稿論文作成時には、以下の別紙を合わせて作成する。
 - ・別紙 1：論文の種類・氏名・題目・所属・連絡先(郵便番号・住所)を記載する。
 - ・別紙 2：論文の種類・題目・キーワード(3～5 個程度)・要旨(400 字以内)・英文題目・英文キーワード・英文要旨を記載する。ただし、英文は編集委員会に依頼することができる。
 - ・別紙 3：この論文に関連する内容の論文等(口頭発表を除く)を公表した実績がある場合、該当の論文等の題目、掲載誌、掲載年、本論文との相違点を記載する。
- (5) 表記については、執筆者の意向を尊重するものとするが、「英文等の表記・用語」の事項を含め、編集委員会が必要と判断した事項については、執筆者と相談で修正することができる。
- (6) 投稿規定・執筆要領に沿わないと編集委員会が判断した投稿論文原稿は、受理しない。また、投稿論文の原稿等は採否にかかわらず返却しない。

4. 投稿の際に提出するもの

投稿の際には、論文原稿、別紙 1、別紙 2、別紙 3(該当者のみ)をそれぞれ 1 部、投稿論文チェックシートと共にメール添付にて提出する。なお、すべて PDF で提出とする。

5. 投稿論文原稿の締め切りと審査結果の通知

- (1) 投稿論文はメール添付で提出する。一週間以内に受理のメールが届かなければ、投稿先に問い合わせること。
- (2) 投稿論文原稿は、毎年 9 月 30 日(必着)を締切日とする。なお、編集委員会において締切日を新たに變更して指定する場合は会員に通知する。
- (3) 審査の結果については、編集委員会が査読結果に基づいて総合的に判定し、投稿者に通知するものとする。
- (4) 投稿した論文の差し替えは、認めない。

6. 校正及び抜刷

校正は原則として再校までを著者校正とし、三校以降は編集委員会で行う。校正の際の内容に関わる修正は認めない。また、抜刷は 30 部とする。30 部以上の部数を必要とする場合は予め編集委員会に申し出すこととし、超過分の費用は実費とする。

7. 著作権

本誌に掲載の論文の著作権は本学会に帰属する。ただし、著作者自身が、自己の著作物を利用する場合には、本学会の許諾を必要としない。なお、『道徳と教育』に掲載された「研究論文」「実践研究論文」「研究ノート」等については、刊行から 2 年を経過した時点で順次、J-STAGE プラットフォーム等で公開する。投稿者はその旨を了解した上で投稿するものとする。

<引用・参考文献の表記法について>

引用・参考文献の表記は、下の1又は2の方式に従うこととする。なお、両方式の混在は認めない。

1. 注記式方式

本文中の出典参照箇所(1)、(2)・・・、又は、1, 2・・・と表記し、本文の後に【註】の項目を設け、各注番号に対応する引用文献の出典情報(著者、表題、出版情報)と該当のページ番号を記載する。

2. 参照リスト方式

本文中の出典参照箇所(1)、(2)・・・、又は、1, 2・・・と表記し、本文の後に【引用・参考文献】の項目を設け、使用した文献のリストを作成し、出典情報を記載する。

出典情報の記載は、下の例を参考として記載する。

1. 注記式方式

1-1. 【註】における文献の記載について

【単行本】

原則として、著者、書名、発行所、出版年(西暦、元号いずれか)、頁の順で記載する。なお、邦文の書名には、『 』を用いる。欧文の単行本は、書名をイタリックで記載する。

〈例〉

- (1) 日本道德教育学会編『道德教育入門—その授業を中心として』教育開発研究所、2008年、142-143頁。
- (2) Morphet, Edgar L., Roe Lyell Johns, and Theodore Lee Reller. *Educational Organization and Administration: Concepts, Practices, and Issues*. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall, 1982, p.160.

【論文】

原則として、著者、論文名、雑誌名、巻、号、発行年、頁の順で書く。題名は「 」で示し、雑誌名、書名は、『 』を用いる。英文の場合、題名は“ ”で括弧、雑誌名はイタリックで記載する。

〈例〉

- (1) 押谷由夫「道德教科化の目的と課題」『道德と教育』第333号、平成27年、68頁。
- (2) Tambiah, S. J. “From Varna to Caste through Mixed Unions.” In Goody, Jack (ed.), *The Character of Kinship*. Cambridge University Press, 1973. pp.191-229.

【Web サイト情報の場合】

Web サイトを直接参照する場合は、()に URL と最終アクセス年月日を記載する。

〈例〉 日本道德教育学会(<http://doutoku-gakkai.sakura.ne.jp/>.2015.4.10)

1-2. 参考文献リストの記載

【註】とは別に【参考文献】リストを作成する場合は、邦文、欧文を含め、註の後にまとめてアルファベット順に記載する。著者、論文名、雑誌名、巻、号、出版年の順に書く。

〈例〉

- ・ Holmberg, B. *Theory and Practice of Distance Education*, Routledge, 1989.
- ・ 行安茂・廣川正昭編『戦後道德教育を築いた人々と21世紀の課題』教育出版、2013年。

2. 参照リスト方式

引用・参考文献リストの出典情報は、下の例を参照して作成する。ただし、専門分野による既定の書式がある場合は、それに準じてよい。アルファベット順あるいは50音順に記載し、発行年は西暦で統一する。

【単行本】

和文文献は、著者(出版年)『書名』発行所. の順に記載する。欧文文献は、著者(出版年). 書名(イタリック), 発行所. の順に記載する。

〈例〉

日本道德教育学会編(2008)『道德教育入門—その授業を中心として』教育開発研究所.
Morphet, E. L., Johns, R.L., & Theodore, L. R. (1982). *Educational organization and administration: Concepts, practices, and issues*. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall.

【論文】

和文文献は、著者(発行年)「論文題名」『雑誌名』巻、号、頁の順で示す。英文の場合、雑誌名をイタリックで記載する。

〈例〉

押谷由夫(2015)「道德教科化の目的と課題」『道德と教育』333, 68.
Krettenauer, T. (2021). Moral sciences and the role of education. *Journal of Moral Education*, 50(1), 77-91.

【単行本の一章】

和文・欧文ともに、書名の後に括弧書きで掲載ページを示す。

〈例〉

行安茂(2020)「グリーン」柳沼良太・行安茂他編『新道德教育全集第2巻 諸外国の道德教育の動向と展望』(pp.59-64)学文社.
Tambiah, S. J. (1973). From Varna to Caste through Mixed Unions. In J. Goody (ed.), *The character of kinship* (pp.191-229). Cambridge University Press.

【Web サイト情報の場合】

著者名、掲載日(掲載年)、資料名、掲載サイト名、URL(閲覧日)を記入する。なお、掲載年が不明の場合は、(n.d.)と記載する。

〈例〉

中央教育審議会(2021年1月26日)『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』
文部科学 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm (2022年4月7日).